

フォルクスワーゲン、「NEW AUTO」戦略を推進して 2022年の基盤を構築

- BEV 攻勢に成功:ヨーロッパで1位、米国で2位、中国は4倍以上に増加
- グループ全体の回復力強化:間接費を大幅に削減し、設備投資に対する厳格な規律の適用により、損益分岐点が低下
- 利益は2倍の200億ユーロに、売上利益率は8%に増加(2020年:4.8%)
- 好調な地域:業績が好転した南北アメリカ、ヨーロッパおよび中国市場における主導的ポジションを確保
- 「NEW AUTO」戦略: 主要な技術プラットフォーム構築の大幅な進歩

2022年3月15日 ウォルフスブルグ – フォルクスワーゲン グループは昨年、「NEW AUTO」戦略を実行し、将来の収益的成長基盤を構築し、困難な環境下でのビジネスモデルの回復力を強化しました。昨年、フォルクスワーゲンは、世界の主要地域で業績を好転させ、e-モビリティ攻勢の加速、ソフトウェア機能の改善、そして効率の向上に成功しました。

ウォルフスブルグで開催されたフォルクスワーゲン年次記者会見で、最高経営責任者(CEO)のヘルベルトディースは、次のように述べています。

「ウクライナでの戦争は痛ましいことであり、何年にもわたる多国間主義と外交を通じて、私たちが克服したと思っていた人々の悲劇と経済の混乱を引き起こすものです。」とディースはコメントしています。「フォルクスワーゲンはこの数年間、その回復力を証明しており、この危機にも対処できると確信しています。同時に、私たちは引き続き“NEW AUTO”戦略の実行に明確に焦点を合わせます。これにより、ゼロエミッションと自動運転の未来を開くことが可能になります。」

好調な地域:業績が好転した南北アメリカ、中国市場における主導的ポジションを確保

フォルクスワーゲン グループは、2021年にすべての地域で事業を大きく進展させました。その鍵となったのが、グローバルなフットプリントと適切な地域戦略および製品構成の組み合わせでした。

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

北米においてフォルクスワーゲン ブランドは、カナダ、米国、メキシコの 3 つの市場すべてで、数年ぶりに黒字転換を果たしました。これらの地域では、電気自動車の「ID.4(アイディ.4)」を含む、5車種の SUV の最新モデルポートフォリオが好評でした。これらのモデルは、米国における販売台数の 75%以上を占めています(37万5,030台)。今後発売される電気自動車の「ID. Buzz(アイディ. バズ)」¹は、この地域におけるブランド復活の立役者となるでしょう。

フォルクスワーゲン ブランドは、南米でも業績が好転しました。この地域では、「Taos(タオス)」や「Nivus(ニヴス)」といったお客様指向のニューモデルが、優れた収益性とプラスのネットキャッシュフローを実現するための土台を構築しました。

ヨーロッパでは、電動化への移行に対する素早い決断と、大規模な電動化攻勢が功を奏しました。これにより、2021年には電気自動車のマーケットリーダーとなりました。ヨーロッパで販売されたバッテリー式電気自動車(BEV)の4台に1台は、フォルクスワーゲン グループのモデルでした。これにより、暫定的な数値ながら、ノルウェーとアイスランドを含む欧州連合における CO₂ フリート目標を達成し、これをさらに上回ることに成功しました。

世界でもっとも重要な成長市場である中国において、グループは引き続き非常に高い収益性を維持し、市場で確固たる地位を築いています。市場シェア 16%は、2位である競合他社の約2倍のシェアです。フォルクスワーゲン ブランドは、市場シェア 11%で、最も成功したブランドとなりました。ポルシェ、ベントレー、ランボルギーニは、販売新記録を達成しました。グループは、2021年にもっと多くの車両を販売できた可能性があります。半導体不足の影響により、高い需要を満たすことができませんでした。

成功した e-モビリティ攻勢:ヨーロッパで1位、米国で2位、中国では4倍以上に増加

フォルクスワーゲン グループの成功した e-モビリティ攻勢は、昨年、さらにその勢いを加速させました。バッテリー式電気自動車(BEV)の販売台数は、2021年に前年比約2倍となり45万台を上回りました。それにより、グループはヨーロッパにおける BEV 市場で1位、米国では2位となりました。どちらの市場でも、市場全体のシェアよりも BEV 市場で高いシェアを獲得しています。中国における2021年の BEV 販売台数は、4倍以上増加し9万3,000台になりました。中国のショッピングモールに設置された120のポップアップストアを含む、若いお客様を対象とした新しい販売アプローチは、グループ最大の単一市場にて、今年、少なくとも2倍の BEV 販売のための道筋をつけることに成功しました。

フォルクスワーゲン ブランドによって先週発表されたアイコンモデルである新型「ID. Buzz」は、e-モビリティ攻勢にさらに弾みをつけるでしょう。このモデルは、単に電気自動車であるだけでなく、ライドプーリングといった将来の自動運転によるモビリティコンセプトにも使用されます。

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

堅調な財務実績:ビジネスモデルの回復力のさらなる強化

フォルクスワーゲンは、2021 年のグループの主要な財務結果と 2022 年の見通しを、先週すでに発表しています。本日公開された年次報告書は、ブランドと地域の業績に関する詳細な数値を示しています。

販売台数は前年比 6%減少したものの、売上高は 12%増加して 2,502 億ユーロとなりました。特別項目計上前営業利益は、2020 年と比較して約 2 倍になり、堅実な水準の 200 億ユーロに達しました。特別項目計上前営業利益率も、前年の 4.8%から 8.0%に上昇しました。この財務実績の鍵となるのが、より優れた製品構成と適切な価格設定、間接費の削減でした。

設備投資に対する規律、運転資本の確実な把握、グループの運用事業からの積極的な貢献により、自動車部門のネットキャッシュフローは 155 億ユーロに達し、前年度と比較して 55 億ユーロ増加しました。2021 年末の純流動性資産は 267 億ユーロでした。

フォルクスワーゲンはまた、競争力を高め、電動化とデジタル化に向けた野心的な変革の資金を捻出するため、昨年から間接費プログラムを開始しました。当初、2023 年に設定されていた間接費(研究開発費と設備投資を除く)の 10%削減という目標は、すでに達成しました。この重要なマイルストーンは、2019 年と比較して 40 億ユーロのコスト削減に貢献しています。

フォルクスワーゲン グループ最高財務責任者(CFO)のアルノ アントリッツは、次のように述べています。「2021 年にフォルクスワーゲン グループは、全体的な事業の堅牢性を強化し、半導体不足という強い逆風にもかかわらず、堅調な業績とキャッシュフローを達成しました。すべてのブランドと地域がこの業績に貢献しました。フォルクスワーゲン ブランドは、北米および南米で重要な転換を達成し、さらに、特にプレミアムブランドとファイナンシャルサービスが大きく貢献しました。これらの成果により、このような困難な時期においても、「NEW AUTO」への変革のために、確実に資金を提供することが可能になります。」

「NEW AUTO」戦略の進捗状況:4つのプラットフォームすべてが大きく進展

昨年 7 月に発表された「NEW AUTO」戦略により、フォルクスワーゲン グループは、最先端のテクノロジーと比類ない規模の経済を提供することで、世界をリードする 4 つのテクノロジープラットフォーム全体で、将来のプロフィットプールを活用することを目指しています。2021 年には、4 つのプラットフォームすべてで大きな進歩が見られました。

フォルクスワーゲン グループ CEO のヘルベルト ディースは、2021 年度の財務諸表のプレゼンテーションで次のように述べています。「昨年 7 月、私たちは 2030 年までに持続可能なソフトウェア主導のモビリティプロバイダーになるための道を切り開くための戦略「NEW AUTO」を発表しました。その後、1 年も経たないうちに、4 つの戦略的プラットフォームすべてにおいて、すでに大きなマイルストーンを達成しました。

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

私たちは、将来のプロフィットプールを活用するために順調に進んでおり、モビリティの未来を形成することに全力で取り組んでいます。」

メカトロニクスプラットフォームに関しては、現在のモジュラー エレクトリックドライブ ツールキット(MEB)が、e-モビリティの業界標準になるための新たな一歩を踏み出しました。フォードとの協力により、MEBをベースにした別のBEVモデルの生産が拡大され、今後6年間でフォードのMEBモデルの生産台数は120万台に倍増する予定です。

グループの本部であるウォルフスブルグでは、重要な決定が下されました。SSP(スケーラブル システム プラットフォーム)に基づくフォルクスワーゲン ブランド初のモデルである「Trinity(トリニティ)」は、本社工場の近くに、20億ユーロを投じてプロセスを最適化して建設された新しい工場生産されます。ここでは、もっとも革新的な生産方法を採用し、生産のCO₂バランスをニュートラルにできるでしょう。したがって、この工場は、ウォルフスブルグ本社工場と、他のすべてのフォルクスワーゲン工場にとって、生産の段階的な転換のモデルになることでしょう。

さらに、SSPの開発のために、8億ユーロを投じて新しい研究開発センターが建設されます。SSPは、将来的に唯一のグループプラットフォームとなります。これによりグループは、電動化および自動運転によるモビリティのための準備を整えています。

ソフトウェアプラットフォームは、CARIADの新しい経営陣によってさらに強化されました。CARIADは、次の成長段階に向けて、有機的成長とM&Aにさらに注力していきます。すでに、Hellaのカメラソフトウェア部門との統合に成功し、レベル3の自動運転を実現するためにBOSCHと提携しています。2022年にCARIADは、米国と中国に進出します。これにより、フォルクスワーゲングループは、ソフトウェア開発を世界市場のニーズに合わせて調整し、プロセスをさらに加速させることができます。

お客様は、すでに今日、CARIADのソフトウェアソリューションを体験することが可能です。車両には、すでにOTA(無線)アップデート機能が搭載され、今秋からはCARIADの新しい機能が追加されます。グループはこれまでに、5万6,000件以上のアップデートを無線で実行しています。2022年には、更新された新しいトラベルアシスト2.5、「Plug & Charge」機能、マルチストップ ルートプランニング、更新されたボイスコントロールを含むソフトウェア アップデートの提供が開始されます。フォルクスワーゲントラベルアシストは、すでにヨーロッパで最高の機能を誇るドライバー支援システムであり、Mobileyeとの協力により、さらに優れたものになるでしょう。

CARIADはまた、2025年に、すべてのグループブランド向けの統合ソフトウェアプラットフォーム2.0を立ち上げる準備を順調に進めています。このプラットフォームのMVP(Minimum Viable Product)は成功裏に開発されました。生産開始の4年前に基本的なソフトウェアアーキテクチャーがテストされ、完成したことは、過去に例のないことです。これは、ソフトウェア主導による車両開発の、まったく新しいアプローチです。

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

3 番目のプラットフォームは、**バッテリー&充電**です。充電は、e-モビリティを実現するための主要な要素であり、フォルクスワーゲン グループは、ヨーロッパ、米国、中国をカバーする 1 つの充電ネットワークを構築するために取り組んでいます。

全体として、2025 年までに世界中で 4 万 5,000 か所の急速充電ポイントの設置を計画しています。そのうち約 1 万か所はすでに稼働しており、今年はさらに多くのステーションが稼働を開始する予定です。ヨーロッパでは、Enel との合弁会社が設立され、BP と協力して、間もなく最初の急速充電ステーションの稼働も開始します。中国では、充電のためのグループの合弁会社である CAMS が、継続的に事業を拡大しています。米国の Electrify America は、2025 年までに 1 万か所の急速充電ポイントを設置することを目標とした、追加の拡充プランを実施しています。

モビリティソリューションの主要なプラットフォームを構築することは、「NEW AUTO」戦略におけるもう 1 つの重要な柱です。昨年、グループはパートナーと協力して、このプラットフォームの重要な要素として、Europcar の株式公開買付けを開始しました。この取引は、2022 年第 2 四半期に完了する予定です。

自動運転によるシャトルサービスも、このモビリティポートフォリオの不可欠な部分となります。ここでは、新型「ID. Buzz AD(アイディ. バズ AD)」が重要な役割を果たします。「ID. Buzz AD」は、ARGO AI のソフトウェアを使用し、すでにミュンヘンにて自動運転機能のロードテストをしています。テストは、2023 年には米国でも開始する予定です。その目標は、2025 年にハンブルクで商用目的の AD ライドプーリングサービスを開始することです。

¹⁾ 量産車に近いコンセプトカー。

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT



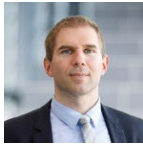
Volkswagen AG

Head of Strategy & Finance Communications

Contact Christopher Hauss

Phone +49 (0) 5361 / 9-984175

E-mail christopher.hauss@volkswagen.de | www.volkswagen-newsroom.com



Volkswagen AG

Spokesperson Finance & Sales (Group)

Contact Christoph Oemisch

Phone +49 (0) 5361 / 9-18895

E-mail christoph.oemisch@volkswagen.de | www.volkswagen-newsroom.com



About the Volkswagen Group:

The Volkswagen Group, with its headquarters in Wolfsburg, is one of the world's leading automobile manufacturers and the largest carmaker in Europe. The Group comprises ten core brands from seven European countries:

Volkswagen Passenger Cars, Audi, SEAT, Cupra, ŠKODA, Bentley, Lamborghini, Porsche, Ducati and Volkswagen Commercial Vehicles. The passenger car portfolio ranges from small cars all the way to luxury-class vehicles. Ducati offers motorcycles. In the light and heavy commercial vehicles sector, the products range from pick-ups to buses and heavy trucks. Every weekday, 662.600 employees around the globe are involved in vehicle-related services or work in other areas of business. The Volkswagen Group sells its vehicles in 153 countries.

In 2020, the total number of vehicles delivered to customers by the Group globally was 9.31 million (2019: 10.98 million). Group sales revenue in 2020 totaled EUR 222.9 billion (2019: EUR 252.6 billion). Earnings after tax in 2020 amounted to EUR 8.8 billion (2019: EUR 14.0 billion).
